

中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

2006年4月10日号

目次

- ◎山東省の地元業者、エタノール混合燃料配送センター設立を認めるよう国に要請
【中国化工報 2006年04月03日】
- ◎1～3月、全国のトウモロコシ価格は上昇
【国際商報 2006年04月04日】
- ◎北京市、公的衛生体系の整備が進む
【経済日報 2006年04月04日】
- ◎山東省、昨年の食品、農産物輸出額は全国3分の1の100億ドル超
【国際商報 2006年04月05日】
- ◎農業部「春季の播種面積は前年と同程度」
【経済日報 2006年04月06日】
- ◎吉林糧食集団、年間100万トンのトウモロコシ高度加工事業開始
【経済日報 2006年04月06日】
- ◎温総理、NZクラーク首相と会談、FTA調印に努力などで合意
【経済日報 2006年04月07日】
- ◎中国代表団と湾岸協力会議、FTAに関する第4回協議実施
【国際商報 2006年04月07日】
- ◎熱帯雨林を通る高速道が雲南で開通
【経済日報 2006年04月07日】

-
- ◎山東省の地元業者、エタノール混合燃料配送センター設立を認めるよう国に要請
【中国化工報 2006年04月03日】

山東省地元の石油製品精製業者21社は、先ごろ、国家発展委員会に対して、地方精油業者に

よるエタノール混合燃料配送センター設立を求める要請を省精油化工協会名義で行った。

現在、同省内でのエタノール混合燃料配送は2大手(シノペック、ペトロチャイナ)だけが行っているが、要請は独占に対する挑戦ともなっている。国は、2001年から東北3省、河南省、安徽省の全域、湖北省、江蘇省、河北省、山東省の一部地区において自動車用メタノール混合燃料の普及を進めてきている。

しかし、燃料の生産、供給、配送は2大手のみが取り扱っており、地元精油業者の製品は取り扱われていない。山東省では7都市で1月からエタノール混合燃料が使用されており、地元業者の市場はエタノール混合燃料に奪われた形となっていることから今回の要請を行ったものである。

◎1～3月、全国のトウモロコシ価格は上昇

【国際商報 2006年04月04日】

2006年1～3月、全国のトウモロコシ価格が上昇している。各月の平均価格は、1月が2005年12月より1.3%増の51.27元(50キログラム、以下同じ)、2月が2006年1月より2.32%増の52.46元、3月が2月より1.79%増の53.4元を記録した。

主要生産地9カ所のうち、遼寧省、吉林省、黒龍江省、内モンゴル自治区のトウモロコシ価格は低い水準だった。1月、内モンゴル自治区、遼寧省、吉林省のトウモロコシ価格はいずれも51元以下となった。3月末現在、各省のトウモロコシ買い上げ価格は、遼寧省が53.1元(14.2ポイント増。以下同じ)、吉林省が49.1元(20.3ポイント増)、黒龍江省が53.2元(14.9ポイント増)、内モンゴル自治区が52.2元(19.7ポイント増)に達したが、いずれも全国平均を下回っている。山東省のトウモロコシ買い上げ価格は全国の平均を5.2%上回る56.2元(3.9ポイント減)、河北省は全国の平均を5.6%上回る56.4元(1.3ポイント減)となった。

◎北京市、公的衛生体系の整備が進む

【経済日報 2006年04月04日】

北京市衛生局のトウ小虹・副局長は、北京市はこれまでに新型肺炎(SARS)、鳥インフルエンザなどの緊急対応・予防プラン10件を策定、疾病予防体系、公的衛生体系の整備は順調に進んでいることを明らかにした。

関係部門の調査によると、市民が住宅区内の診察室で診察を受ける割合は1996年の2.1%から2005年は41.3%に、2005年の診察を受けた患者は22万3500人に達し、市民の住宅区診察室に対する満足度も向上している。北京市は、2006年に全市で住宅区衛生サービスセンター・診察室948カ所を拡大建設していく計画である(新規建設も含む)。第11次5カ年計画(2006～2010年)期間中、同市は20億元を投じて住宅区衛生サービスセンター360カ所、診察室2700カ所を建設していく。

また、全市の農村部で医療保険に加入している農民は249万人、2005年の農民向けに支給された医療保険金は2億7000万元に達している。

◎山東省、昨年の食品、農産物輸出額は全国3分の1の100億ドル超

【国際商報 2006年04月05日】

山東省2005年の食品、農産物の輸出額は100億ドルを突破し、同省農産物の輸出量は全国の3分の1を占めている。山東省は、国際市場のニーズに基づき、農薬・動物用医薬品残留抑制体系を整備、輸出食品、農産物に関する農薬、動物用医薬品の使用制限規定、管理弁法などを制定した。

また、輸出業者の国際競争力向上、基準をクリアする栽培拠点建設にも力を入れており、全省の輸出用家禽飼育場は372カ所、野菜栽培拠点は125万ムー（1ムーは6.6アール）に達する。欧米、東南アジアなどの主要輸出先の基準に基づき建設された輸出農産物栽培拠点は40万ムーに上っている。さらに、山東省は、日本・韓国・アメリカなどの従来市場にとどまらず、ヨーロッパ・中東などの新市場開拓も進めている。

◎農業部「春季の播種面積は前年と同程度」

【経済日報 2006年04月06日】

農業部は、5日、3月31日現在、全国農作物の春季播種面積は前年同期と同程度の1億7900万ムー（1ムーは6.6アール）に達したと発表した。

このうち穀物は9800万ムー、綿花は89万ムーとなっている。各地の播種進度は華南地区、黄淮地区では前年よりやや早め、西南地区、江南地区、西北地区ではやや遅く、江淮、華北地区、東北地区では前年同期と同程度となっている。

また、3月中旬以降は全国的に少雨傾向で、特に華北地区、西北地区の東部、黒龍江省西部、雲南省中北部、華南地区の一部で少ない。一方、江南地区南部と華南地区の大部分では3月、雨天が15～24日続いて日照不足となり、作物の成長に影響を与えている。

◎吉林糧食集団、年間100万トンのトウモロコシ高度加工事業開始

【経済日報 2006年04月06日】

食糧大手、吉林糧食集団は、5日、トウモロコシ高度加工プロジェクト（年間100万トン）、アルコール化プロジェクト（同30万トン）の建設を五カ樹経済開発区（吉林省長春市）でスタートさせた。建設は長春吉糧天裕生物有限公司が担当する。

プロジェクトの敷地面積は34万8000平方メートル、投資額は10億元。第一期プロジェクトでは4億9900万元を投じ、11月に完成予定である。トウモロコシを年間に100万トン加工、トウモロコシを原料とするアルコールを30万トン生産し、年間の生産額は11億4000万元に達する見込みである。

◎温総理、NZクラーク首相と会談、FTA調印に努力などで合意

【経済日報 2006年04月07日】

ニュージーランドを訪問した温家宝総理は、6日、クラーク首相と会談、両国の協力強化などに

ついて話し合い、以下のような合意に達した。

1. 互恵、WIN-WINの両国関係を確立する。
2. 両国指導者が毎年会談する仕組みを確立する。
3. 1～2年以内に両国間の自由貿易協定(FTA)に調印できるよう努める。
4. 農業、牧畜業での相互投資を拡大していく。
5. バイオ、ITなど新しい協力分野での両国連絡会を早期に設立する。
6. 組織的な国際犯罪取り締まりで協力していく。
7. 東アジアサミット、太平洋島嶼国会議での協調、協力を強化する。

両首脳は、会談後、両国間の刑事司法協力条約、両国政府文化協定など複数の文書調印式に出席した。

◎中国代表团と湾岸協力会議、FTAに関する第4回協議実施

【国際商報 2006年04月07日】

中国商務部、財政部、農業、海関総署(税関)、国家質検総局(国家質量監督検験検疫総局製品品質を管理)らで組織する中国代表团と湾岸協力会議(GCC:Gulf Cooperation Council)代表团が、オマーン的首都マスカットで行っていたFTA(自由貿易協定)調印に関する第4回協議が4日に終了した。双方は、市場進出許可制度、原産地ルール、貿易救済、貿易障壁(TBT)協定、SPS協定(衛生植物検疫措置の適用に関する協定)などについて協議し合意に達している。

◎熱帯雨林を通る高速道が雲南で開通

【経済日報 2006年04月07日】

全国で初めて熱帯雨林を通る高速道路「思小高速公路」が6日に開通した。雲南省昆明市とタイのバンコクを結ぶ国際道路の一部で、中国部分は全長97.7km、40億元を投じて2003年6月から建設工事が進められてきた。同高速道路は熱帯雨林自然保護区を通るもので沿線には野生動物が多い。このため道路には道路両側を結ぶトンネル15本、橋300本を建設し、野生動物や地元民が往来できるようにした。

また、沿線は気温が高いため高温に耐えるアスファルトを使用、トンネル内の照明の電源は太陽エネルギーを利用している。通行料は車両の重量に応じて徴収する。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により 翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て 独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。
--